

第2学年 国語科学習指導案

日時 平成24年10月26日(金) 5校時

生徒 2年 2組 男子18人 女子18人 36名

指導者 三松 久恵 (滝沢第二中学校)

1 単元名

5 いにしへの心を訪ねる 扇的 「平家物語」から

2 単元の見どころ

- 自らすすんで朗読させる。(関心・意欲・態度)
- 古典の文章の表現に慣れ、その特徴をつかんで読み味わわせる。(読む・伝国)
- 場面の状況を読み取り、その場に置かれた人物の心情を読み取らせる。(読む)
- 登場人物の言葉や行動の意味などを考え、物語に描かれたものの見方や考え方について、自分の考えをもたせる。(読む)

3 単元について

二年生での古典の学習は、原文中心に教材を構成してあり、古文や漢文の表現から古人の心に触れ、古典を楽しむ学習を目指している。本単元では、古文は随筆として「枕草子」「徒然草」、物語文学として「平家物語」、漢文は漢詩を学習する。

「平家物語」は我が国の代表的な軍記物語である。中でも「扇的」は神業の華々しさの裏に死を覚悟して臨む若武者の心情が表現されている有名な一場面である。那須与一が見事に扇を射落とし、どよめきたつ平家・源氏両軍。しかし、与一の腕に感動して舞を舞った老武者までもが、続いて射倒され、場面は一転して非情な戦場へと引きもどされる。御定とあれば罪なき人を射ることもせねばならない与一の悲しさ、戦の厳しい現実と向かい合う人々の切実な姿を読むことで、自分自身を含めた人間の生き方を追究できるのではないかと思われる。

文体は「和漢混交文」で表されている。和文脈の柔らかさと漢文訓読調の硬い響きが溶け合って独特のリズムを作り出している。擬態語・擬音語や色彩語を用いたり、係り結びや対句表現を配置するなど、語り物として洗練され、磨き上げられた表現は、声に出して読み味わうのに適しており、古典の楽しさを味わえる教材である。

4 指導にあたって

全体的におとなしく、落ち着いている学級である。積極的に挙手発言する生徒もいるが、国語への学習意欲については個人差がある。特に古典の学習は難しいと感じており、音読にも自信が持てない生徒もいる。「平家物語」のリズムの良さを味わい、冒頭部については、暗唱を全員に行わせ、古典のリズムに親しませたい。

「扇的」の本文は、「扇的」までのあらすじをまとめた現代文の部分と、原文と口語訳を上下に対照させた部分との二つからなっている。「扇的」の場面にいるまでのあらすじについては、教師が範読し、状況を確認させて、あらましを押さえさせたい。原文の部分は、まず、音読ができるように練習し、練習方法を工夫して何度も繰り返し、自信を持ってすらすら読めるようにさせたい。次に、原文と口語訳と照らし合わせながら、歴史的仮名遣い、助詞の省略、主語の省略、表現の工夫など、基礎的学習内容の定着を図りたい。

内容については、そのときの状況や歴史的な背景などを具体的に想像させて、登場人物の心情に迫りたい。古典ではあっても、現代の人々にも共感する思いがあり、より古典を親しみあるものとしてとらえさせたい。反面、一つの時代を背景として、明らかに今とは異なる生き方があったことも考えさせたい。

5 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
概ね達成でき 状況	・古典の文章特有の言葉遣いやリズムを捉え、読み慣れようとしている。	・登場人物の描写や行動、会話などから、物語に描かれたものの見方や考え方について、自分の考えを持って書くことができる。	・各人物の置かれた立場を理解しながら読み、自分なりの感想を持つことができる。	・「平家物語」を読む上での基礎知識や表現方法、語の意味、独自の言い回し、仮名遣いなどを理解して朗読することができる。

6 単元の指導計画(全6時間)

- (1) 「平家物語」について、成立年代や作品の特徴、文学的価値などについて理解する。
「平家物語」の冒頭部を読み、内容を理解する。・・・ 1
- (2) 「扇的」にいたるまでの現代文を読み、内容を理解する。・・・ 1
- (3) 与一がどんな場面で扇を射なければならなかったのかをまとめ、与一の心情を考える。・・・ 1
- (4) 扇を射抜いたときの様子を原文と口語訳で確認し、表現の効果について読み味わう。・・・ 1
- (5) 舞を舞った男を射る場面を原文と口語訳で確認し、与一の心情や周りの人の心情を考える。・・・ 1
(本時)
- (6) 「弓流し」に描かれている場面を確認し、登場人物の心情を考える。・・・ 1

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・戦の状況下に生きる登場人物たちの心情や葛藤を読み取る。

(2) 展開

過程	学習内容・学習活動	・指導上の留意点 ◎評価
導入 7分	<p>1 前時の学習部分の音読をする。</p> <p>2 前時までの内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰と誰の戦いか。 ・源氏の軍勢を率いているのは誰か。 ・扇の的を射る役を命じられたのは誰か。 ・時、海の様子。 ・与一の覚悟。 ・射抜いた時の平家と源氏の様子。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>与一が的を射た後の場面を、口語訳をもとに確認し、与一や周りの人の心情を考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で顔を挙げて音読するよう指導する。 ◎すすんで声を出して音読しようとしているか。 ・前時までの学習内容を確認し、平家、源氏、与一の置かれた状況を想像させる。 ・与一や周りの人の心情を想像するために、口語訳を照らし合わせ、内容を押さえるという見通しを持つ。
展開 36分	<p>3 本時の場面の音読練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読を一齐読み、個人読み等いくつかのパターンで練習させる。 ・口語訳を確認しながら、表現についても確認していく。 <p style="margin-left: 40px;">歴史的仮名遣い 助詞の確認 擬声語</p> <p>4 どうして「五十ばかりなる男」が舞い出したのか、原文から抜き出す。</p> <p>5 「御定ぞ、つかまつれ。」と命じられた時の与一の心情を発表する。</p> <p>6 「あ、射たり。」と言った人と「情けなし。」と言った人の心情を発表する。</p> <p>7 どちらの立場に共感できるか、理由を含めて発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎すすんで声を出して音読しようとしているか。 ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読めるように注意する。 ・見つけられない生徒には口語訳から探すよう促す。 ・義経の命令は絶対であることを押さえる。 ◎与一の置かれた状況をふまえた上で、与一の心情を自分の言葉で書けるか。 ◎それぞれの思いや考えを自分の言葉で書けるか。 ◎どちらの立場か理由も含めて書くことができる。
終末 7分	<p>8 活動の自己評価をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を振り返る。(評価カードに記入)